

HIROSE-HOSP. HIROSE-HOSP.

ひろせほすぷ
2013

医療法人社団「研宣会」の理念 研鑽、誇り、地域貢献

従来より広瀬病院の理念は“専門性を生かした患者中心の医療と看護”でしたが、健康増進施設「アズーリ」や短時間通所リハ施設「プラザ」も含めて医療法人「研宣会」全体としての理念が必要であると感じ、“研鑽、誇り、地域貢献”を研宣会の理念と決めました。医療人としての誇りを持って研鑽を積み、地域に貢献したいという思いを込めています。高邁な理念に恥じぬよう、職員一丸となって努力を重ねていきたいと願っておりますので、皆様のご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

なお理念に合わせて基本方針も以下のごとく見直しました。研宣会ならびに広瀬病院の長を生かしながら、医療関係者や患者さん、並びに地域の方々と手を取り合って最大限の努力を重ねたいと考えています。

1. 整形外科の専門性を生かして地域住民の健康と活力に貢献します。
2. 医療の質を高めるため、努力と研鑽を重ねて「根拠に基づいた医療」を実践します。
3. 患者さん中心の医療を行うため、全職員の専門性を結集します。
4. 地域の医療機関や施設と連携して、患者さんの健康・福祉・社会参加に貢献します。
5. 十分な説明と情報提供を行い、納得のいく医療を提供します。
6. 心こもった癒されるサービスを提供します。
7. 職員が誇りを持って働き続けられるよう、職場環境を整えます。
8. 上記の項目を実現し継続するため、健全な病院経営を行います。



第10回 研宣会 職員全体研修会 ガンメッセ香川にて

記念の10回目となる職員全体研修会を6月27日(木)に行いました。

患者さんにはご迷惑をおかけしましたが、充実した研修を職員全体で行うことができました。

研修内容

- 研宣会の理念について
- 院内感染 「M R S A対策・除菌」 ファイザー(株) 山本 剛 様
- 研究発表 「当院における骨密度測定率の実態」
- アンケート結果 「当院に対する患者さんアンケート」 病棟・外来
- 医療安全 「さらなる取り組みに向けて：現場の取り組みの見直しと今後の課題の検討」 九州大学准教授 鮎澤純子 先生
- B L S 講習会一実技実習

非常に盛りだくさんな内容でした。



チームワークの大切さを実感するためのレクリエーション ゲームも行いました。

リハビリテーション部

早朝勉強会

毎月第4木曜日、7時30分より早朝の勉強会をリハビリスタッフ中心に、院長先生、神澤先生、他部署スタッフで行っています。平成22年1月よりスタートした勉強会も今年4月で40回目となりました。

第40回、41回目となる勉強会は、当院院長より「スポーツ整形外科のあれこれ」というテーマでミニレクチャーを行っていただきました。スポーツ疾患のなかでも、当院で多く遭遇する前十字靭帯損傷、足関節外側靭帯損傷の2つを取り上げ、基本知識から治療など院長先生の考えもお聞きしながら、スタッフ間で意見交換を行うことができました。

今後も本勉強会を継続し、スタッフ間で切磋琢磨しながら、よりよい医療を提供できるように頑張っていきたいと考えています。



■ 学 ■ 会 ■ 報 ■ 告 ■

第48回 日本理学療法学術大会に参加して



平成25年5月24日から3日間に渡り、第48回日本理学療法学術大会に参加しました。本大会のテーマは「グローバルスタンダード」であり、教育・研究・臨床の各領域でのシンポジウムや口述演題、ポスター発表がありました。日本理学療法協会では、理学療法の対象である16の疾患と領域について、平成23年度に理学療法診療ガイドライン第1版をまとめ、私たち会員に提供しています。本ガイドラインは各疾患に用いられる（理学療法）評価法や、理学療法介入について、エビデンスレベルと推奨グレードを、全世界の学術誌などで公開されている論文をもとにまとめたものです。今後、私たち自身が普段行っている評価法や理学療法が推奨グレードの高いものなのかを確認すること、またそれらが患者さんや利用者さんに提供できているのかを考えながら日々の業務に取り組んでいきたいと思ひます。

理学療法士 ■ 河野 正晴

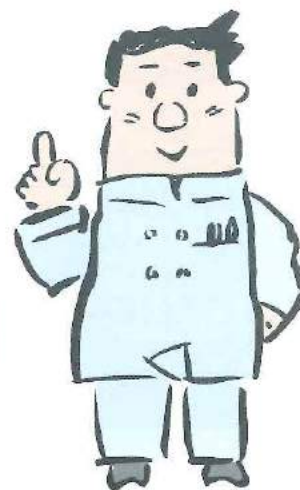
第25回 日本ハンドセラピー学会 学術集会に参加して

平成25年4月20日・21日、神戸にて開催された、第25回日本ハンドセラピー学会学術集会に参加しました。初めて全国規模の学会に参加し、緊張もありましたが、様々なことを学ぶことができました。作業療法士は手のリハビリを専門として行っているという特色もありますので、今回の学会は非常に勉強になり、とても実りあるものとなりました。

香川県内の他の病院の作業療法士の方も、発表されていたこともあり、良い刺激となったと共に、今後自分の知識を増やし、広瀬病院の職員として活躍していきたいとも、改めて思うことができました。今後も勉強会に参加していきたいと思ひます。



作業療法士 ■ 田村 篤史



MRIの安全管理

2007年4月1日の医療法改正（安全管理責任者、院内感染管理責任者、医薬品管理責任者、医療機器管理責任者の設置の義務化）に伴いMRIの安全性への関心が高まっています。

しかし、MRI (magnetic resonance imaging) 装置における吸着事故は全国的に増加傾向にあります。

当院もスタッフに対する啓発と教育が必要であると考え、院内教育の一環として勉強会を実施しました。

●講義内容は

- 実験：磁石の力（ビデオ鑑賞）
- MRI検査中の死亡事故報告
- 事故を防止するために大切なこと
 - 説明と問診内容
 - 検査室へ入室する前に確認すること

中でも安全性に与える影響として静磁場の影響（力学的作用）を中心に問診の重要性に関して説明しました。

●まとめ

スタッフ全員が認識すべきことは…

☆MRI検査は他の検査と異なり、システムの電源を落として検査を行っていないときであっても、常に静磁場が発生しているため、検査室へ入室するだけで危険な状態になる場合があること。

☆MRIは、電離放射線被ばくがない低侵襲な検査ですが、装置の管理や使用方法を誤ると非常に危険な装置となり、場合によっては、死亡事故が発生する可能性もある装置だということ。

以上の二点です。

今回の勉強会がMRI検査の安全管理における知識の向上と事故防止につながる事を期待しています。

広瀬病院 診療放射線部 ■ 石井 誠



医療法人社団研宣会

専門性を生かした

患者様中心の医療と看護



広瀬病院

〒760-0079 高松市松縄町35-3 TEL: 087-867-9911(代) FAX: 087-867-9988

ホームページ <http://www.hirose-hosp.or.jp>

E-mail info@hirose-hosp.or.jp

発行者：医療法人社団研宣会理事長 広瀬友彦

編集：広瀬病院広報委員会

発行日：平成25年7月